

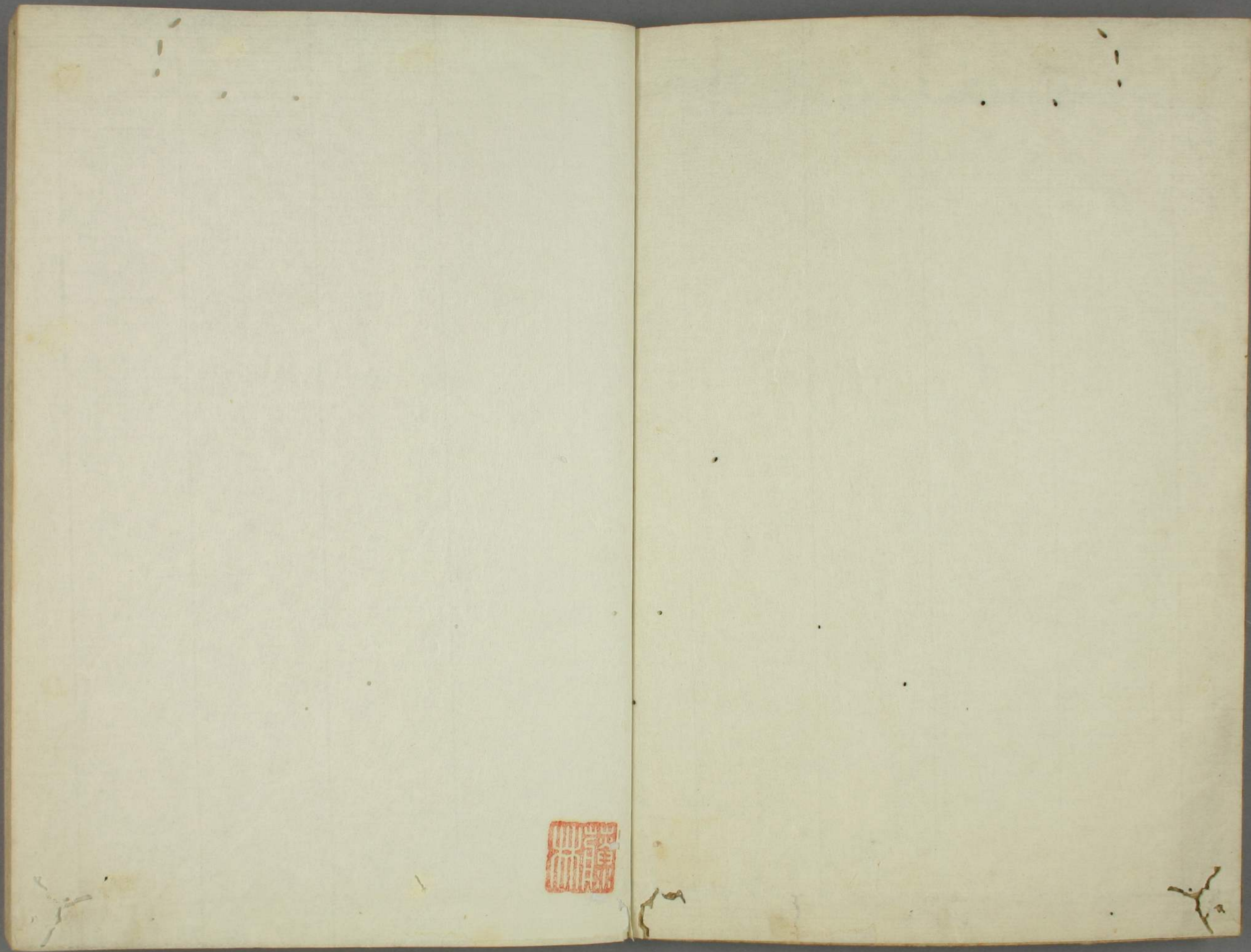


聞書

全

特別
子 12
3643
138





今春を更

一 智徳孝子の后春川勝の末裔として高時の今春より近江代
 具性より家と終り傷如く代り同姓とくお傍の事あり受
 氏を奉ふに申せは日本に氏より此の末始白王の末とて佛歌守
 屋退治の時を子三十三書の僧馬樂と作し河川勝より
 河川國家安全の事となり後藤武之書とありて藤乃
 面より子れ河川勝とく之世とて誠能とく之の事ありと
 是日中より始り一故和樂とて今春大を更とて人知世の
 式より増く盛よりあるとて今春不勢の知行代とて和列
 五百石山林より知行の由也大を更より人知世の五百石
 百石石乞とて去る事ありて末子より五百石乞大を更と
 大を更の知行代とて深くたつとて人ありとて今春の柳生
 徳島守殿の知行代とて心妙知とて心理の知行代とて是れ



傳連二勅者幸く申すべし其言云守石御子の事申す所の外
才子を教多物かゝる二人靜二勅まなきといひ成事とて清
る害人を更さるゆゑに此の二人静ハ我まかゝる者ありて三人
靜の能き此れ申す才子ありて我まひとて心のものを
此れ才子官王のたまふいと此勅者とも深めと申遠傳つ
ま成連きと申す上と云ふ上と云ふ考吉云作小中遠有内
事ありて二人静及びいふ復ふ一書ありまよとて勅申すや
是お誦し傳ひ又中遠ありといふ極ありて心まりせよはやとの信
此上を長入といひ清中一極ま日よ成連もかし終合と事申す
まふと云ふ奴神よてお察束と云ふ一人幕へりり時官王面と
たのまふおと今春へ向ひおやら成先へいさしやさう我が下り
と云ふ今云ふまをまといと縁の付傳めかと申す官王まといとて
笑て相面と御えといふ京橋女と勅不曲舞成神の文流と今

春日向くしり地は官王ハりとて申す西河の流と云王とて是
まはらと云はらとてん後れも美人の心理の働一書れ能のち某地合云
傳を絶一考吉云清感其を堂上堂下の思おんおと
あり此は舞形と云の記録よの甘有り一性只今春の七更
とて七人の連を更有 春日を更 官王を更 大花を更 考を更 何れ也
孔雀を更 鹿を更 鹿を更
今春よりお世よと云を知まき一者ありぬ己より一分との志量
おてと云と後中遠より成又を礼せまといふお教一所と
今くせしと有

- 一 大花を更ハ甲子所をよせ布小水終茶子付と云の末のふ
大花を更のよせ大花を更とありと云
- 一 春日を更ハまら御り春日を更とてと云の連を更と云 公儀
此は持下所との樂屋の遣傳よとていふ此水好よ付石ハ御を
舞や春日の大獅子小獅子とて西河を今ハ河は若てな

一 丸を更へ今の七を更へえ祀之仰ふの事解ふ人と思ひし事とて更へて皇石有者て解ふ人凡一流と建今春と中遠と云と也
是古七を更なりと云及

一 幸を更へつもの比より小殿とある是今の幸家也

一 孔雀を更へつもの比より橘別姫踏よ後居して仰り神事何忠
神事能の更へを勅脚通えのありを更へ成孔雀くと云よ此
指取大坂よてを勅進能の名代を更へ成波世と云よ此踏よ後居
ゆへ姫海の主へ能とは勿論勅使城主のを更へ心く神事あり
今孔雀を更へ成中ある後幸と云く幸とて孔雀と世よ此之
一 宮王を更へ虎を更へ人を更へ絶せや今いゆりとも云
一 初度八席ハ鳥居耐為よ此言よ六日の阿久ぬ面を掛て懸とあり
目の穴あきんく成三万四方の緯巻を更へ是子ハなぬと云

ヤウ

一 春日大明神清祭禮を上月廿五日昔より恒例よて清本社を名
宮へうつとて清祭禮を移る事と云今春を更へ海の家来よて神
流の地を切ると記述してよ次小南社の町より流有と諸人記す
今春地を切るとりさる内を流人あり世信地ありとも云
云智の事と云人もあり

金剛之書

一 元祖と三帝と云今春の藤子家よて夫氏夫の子也仍三帝より
能脚よてと云今割とあり此は坂戸三帝と云今割と云字
を今春の三帝より二代の事あり今割山の山を吾子と我
藤相續より今割と云ある右三帝を親りて吾の屯子よて礼拍
子と云ませ及思ひし礼拍子の懸の家よ附屋道成寺よ附
に於事由へ信吉流と板自らの節三帝をよ子方を云く礼拍子
をけくぬませより信吉流と今割の能へ今割よて礼拍子の

時勢中の細とけしをあるにテ乃中をチャリト押し極むと成りしあり又
ある長刀をたてはる程へ行運の極うと成りしと傳をチはる程に
扱方おわしよそのお切よ然申の細くとも也又今利の能く今利
とてと元天井と十三方を踏す月を遊しふおも極極くゆくは舞臺
の極極くゆくはわきと月窟の上へ去る小庭に梵王天よりと扱めて
亦財をあるも扱りしとた(車)出りしと去ると扱りしと走り
は舞臺トと扱りて今剛を更と名する人お出りしと十歳と誠六千と
年述せしる人なりと今剛と云名何しとや又不勤も極を亦割しむ
くひやありしと扱りしと代りしと死友世家若く成おのれくは流儀を
うすもくうとと人なりと有又之流儀を柳とて扱りしと達者事と
し扱りしと官とと扱りしとくはまは仕業を亦柳とて入りしと内事不
整病死しとくはまは山外くはる 今剛のまを更いせ人官に世家若り
家小竹世家若り天の第と云おのれ年取拍子方亦極も扱りしと治り

觀世を更

一 義政お軍東山殿と中山町より能くまり是より前へと去りしと
又能く心ありしとあり観阿弥世阿流もあり能の或と扱り定ん
一 山城雜馬山每具小観世乳河系よりく官の能具行是扱を能の初と
ありしと帝过れよ 一 度能く山每具小観世乳河系よりく観世を更
能具行見おる石の雜馬山流夜中とまきと建し中仍観世を更
小節七中ねよ一一代能より能治りしと能より過れしと
一 観世を 清當代の翁を更也慈仁の乱より公方お表へ礼家と者も
而くも方期し観世は 徳川家へも役今 清當代の翁を更也世の
よる治りしと

一 観世是雲連の南都より神の能部ゆへ毎年十月より扱りしと
は神子と扱りしと又亦観世清徳初と扱りしと四月より南都へ上り

世より再興と日吉を才子と名おぼせしむるは、
作らざるありて、目元利細工の面を、
とす、南朝より新能の宗女とて、
ゆきよ八重町の西郷、
結り有りとせり、
乃男とて有りと

在りてを更

一家の世と宗人之傳、
秀吉の時に流儀と建、
流儀の系子とて、
宗女とて、
初め八重、
一在りてを更

大武ハ、南朝院様、
大武別院、
さく大武、
らす、
子、
柳也

一松平加賀守、
日か、
夜と、
たり、
多も、
二人、

一古七を更永初より一代初を徳貞の阿島以カケリ内意一相持為の内
小来り飛出るとすこくと走り寄り打屠一親を奪ふと十羽のしる有
日光市社来り昔ハ市徳とて山後若山伝より古七を更永中七力と
物と自ら身中より智の如く知能の長刀をその高の折おとすふか
せ青目付何れもせよおとのと大由るをたさるの曲事とを
上國も達す 上意も心けの病者人御りくの極高より徳政を
ら風玄附のたよりおとつらんを附の用とくわいの目よさぬ極おとさ
山形にふくと 上意もくまより徳へ下ケおとす古七を更ハ細術
より徳ハ長刀をたさるより一附の山徳小高古七を更永幕際まで
離子の面より舞ハこころ上も志も心徳にサとすく是ハ部云
乃時節也ちとくさく徳より月ふなけとくさく心もく有一物
舞とすも徳より一徳高次の多妙を附ハなりとす
一七を更初を徳より上京の時来りて馬方高御を御も徳より歩擲

下には死との言れを建まれば城中守殿は石匠より方高御意御を
汝ハ徳永振人の為教言せと書付る城中殿も版立まで七を更下
ち徳より極と云儀ハ山形知約十二万石を徳上も一教との事の上
徳と酒徳も素名を通る一附打教も人かく徳も徳中本高徳
を更ハ山形一御り山形中も徳山徳徳有と云主山七を更
ある何れと七とり佐物とあり者 云儀ハ上高の素名も馬子とサ
教ハれと建ハ山形とて今も七を更ハ徳すい極も山形と云
何れ七を更永高先も教由ヤある付けらん佐物と云儀ハ城中殿
山形一御り徳と云徳ハ城中殿ハ七を更ハ勿論青子あし徳の十を
更ハ山形徳より山形徳ハ山形
一山古高徳の御本を徳より徳も佐物徳徳もと云主山形の徳ハ山
の素袍上下朱鞘のサカをそで付何れもあふ御本を山形より小十を
更永の徳とす時ハ村ハけの素袍のくわあると云主山形の七高徳の

母子紀原様御別取十五更ありと云ぬ御く由意は中人をたする格ハ
此お傳難申として皇月を此お傳く事之混答之ちら宝生才ありぬ
主山宝生亦も勿論是迄未だなくと云らへた京様此傳史を此月
の御之是と七を更及高懐り此大ゆいお似格の之親十五更此神
文もはりて申上り月をうけ方の才子も教し宝生お後任る云々
一應此後授も好く此言へた格もいと懐り夫も不承意地者之る遠に
竊りと云ぬ推してうけ格もや

一 此女家ハ元祖古七を更主此十五更主此七を更 是中東前を所後河田子松山
主此十五更 十七八才丁死ス 主此七を更 是信 主此十五更 是ハ横山所
主此十五更 又十五更を所後下云 主此七を更 是信 主此十五更 是ハ横山所

似我と云ぬ事

一 中國皇法偉人格壇中五帝吉久子之親と云ぬ高藏小教を才
意照院義政云仕ん東山殿と申中將軍之と五帝礼舞一通りの達人

少く有り格壇ハ此海皇御孫御免仍皇法格壇と云ぬ壇跡七
日跡た指つ大元皇のくわ何事をもと希り才子之後宗祐と云小教と云壇
跡たつ所序す先小教の元祖ハ大教ハ大元皇の懐り一子此を更ハ左教ハ
主り此をより國原と云後お親せと云申つ はあ 宗伯と云

金春又云ぬ事

一 本國大和国竹田令皇或アを更夫信よりお代令皇公帝 及連の才
跡七帝喜家と云左教ヲ才子又五帝主家親跡七帝にわひ左教を
お政似家り才子又家傳所傳史をよお似家より左教のお附屬乃
神文と云ぬ又たつと改更を云ぬ勸不令皇古又云ぬ事
権親様此云石山親世をくわお似親世と名字を改 意照院様より
雲洞様 神免名をうけ申つと改と云 上意は子お人右親殿より
右名家之此男服取家と云三男大元皇源をうけ才女大教才を云
云たら左親之此男ハ其たつとして今皇はたつ今皇又たつと云々の事

脇方と事

一 春夜も亦ふしを更しりあき物とあへて性直の志皆を更のさるる
て服とせ連とせ地と爲しきるものよき夜もあのえ程何事も
量胸まし一若きと脇脚と事家を建より法良の意相解せしつと
方の秘傳より一卯の御孫と事と脇脚の傳文事と法良の解せしつと
と一何事も昔を更の初一事あれは脇方と後よあき今を流と事子
小傳つとせよあつと法良の解せしつと今を更方より初とせし服方
より吾と事事つと一物と巾の法とたの通とせしを更服と事何れ
を法良の解せしつと服のおとあれはを更より初と事と一春夜も
余田新と事つと事子と一法良の解せしつと法良の解せしつと
一子お他と建と事と一傳文と事と法良の解せしつと法良の解せしつと
才子の力と事と一初と事と一地の仕方と事と一足てと事と一あんと事と
足と事と一あんと事と一あんと事と一あんと事と一あんと事と

此用の節又より法良の解せしつと法良の解せしつと
及く此れと事と一あんと事と一あんと事と一あんと事と
正事の解せしつと一あんと事と一あんと事と一あんと事と
初と事と一あんと事と一あんと事と一あんと事と
一 春夜も亦ふしを更しりあき物とあへて性直の志皆を更のさるる
と一あんと事と一あんと事と一あんと事と一あんと事と
解傳の初と事と一あんと事と一あんと事と一あんと事と
今を更の方と一あんと事と一あんと事と一あんと事と
初と事と一あんと事と一あんと事と一あんと事と
道定まより一あんと事と一あんと事と一あんと事と
あんと事と一あんと事と一あんと事と一あんと事と
今を更の方と一あんと事と一あんと事と一あんと事と
黒田たつと事と一あんと事と一あんと事と一あんと事と

遊後の時一夏の節とて下つ小湖水より白く吹雪を感小
へさるまじき節と流あつしと流を水付自見えり下ま時の山脈を
流とせざる代り取つる物を流を流代り新流の流とせり人考を云山脈
今金の扇を振りしとたの御物も新流の流とせり

云候金割流も自見と云節あり昔のあれと云下但今ハ森田流の
オアム

大教流と有る事

一 樋口と云大教ハ有る云の時ハ森田はり津来中より折津水脈初道迄ハ
知約一年ハ森田ハ森田の首極台を自見と云ハ首極の川流ハ森田
オアム石井ハ樋口オアム尾頭ハ初ル

一 森田流ハ森田の源中流と云ハ森田の源中流と云ハ森田の源中流
その間ハ森田の源中流と云ハ森田の源中流と云ハ森田の源中流
今ハ森田の源中流

一 尾頭ハ森田の源中流と云ハ森田の源中流と云ハ森田の源中流
今ハ森田の源中流

一 高安流ハ森田の源中流と云ハ森田の源中流と云ハ森田の源中流
今ハ森田の源中流

一 三ヶ所流ハ森田の源中流と云ハ森田の源中流と云ハ森田の源中流
今ハ森田の源中流

一 大船院様津代ハ新九郎小太郎ハ森田の源中流と云ハ森田の源中流
今ハ森田の源中流

一 新九郎ハ森田の源中流と云ハ森田の源中流と云ハ森田の源中流
今ハ森田の源中流

一 行方ハ森田の源中流と云ハ森田の源中流と云ハ森田の源中流
今ハ森田の源中流

一南龍君沖五五よりくままとあり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より
清のよとのけさせしは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
日は増り仲るのよとのけさせしは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
連の思ふよてをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
上まはり柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
お奉りも勿論なり七をまはり中具用山とまはり一子の印にお供させしは柳のいさふ脚もをまはり
沖波も不入り沖家の柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
此の院よてをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
沖まはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
作てはとまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
まはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
わく沖見物下は清子ゆきまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
四へまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり

るものく清く礼作はるるいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり

は清のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
沖まはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり

清波院云く清代よ威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
みより威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
おまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
す極はるる威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
とまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
清波院云く清代よ威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
公方様の沖聲君よて沖波中様と清波君様とを威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
おまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
おまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
おまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり
おまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり是より威勢高くは柳のいさふ脚もをまはり

由伊木 杉井参り

大云 辛卯 源七 源六

吳以服 存之 又五 存之

二百メ

箱 三番三 七三本

氷室 辛卯 信七 源六

獨八柳 辛卯

杉政 与右 又五 今十市

栗田口 惣柳

湯谷 十乃 辛卯 新三本

夜子 辛卯

左乃集 存之

海士 辛卯 存之 源六

喜以丸 源七 他之 又七

四百メ

公卿 三番三 源七

阪通 辛卯 存之 今十市

恒三 与右

梅之元 辛卯 存之 今十市

春栄 十乃 存之 源六

柿大島 七三本

乃成寺 辛卯 存之 今十市

徑のい 源七本

檀風 辛卯 存之 源六

乃成寺之古柳

之柳 辛卯 存之 源六

五回メ

感陽宮 辛卯 存之 源六

花之蓮 辛卯 存之 新三本

雲のり 又五本

七橋落 十乃 存之 今十市

右喰 存之

夜子 辛卯 存之 源六

行し和

存之

源六

源七

源七

今十市

今十市

今十市

源六

源六

遊の柳 辛卯 存之 今十市

物籠 辛卯

東屋居士 辛卯 存之 源七

津魚 辛卯

礼 十乃 存之 源六

辛卯 存之

相討言 存之 源六

行村高直の事

南無院様より 石部忠名の事

東の役田織より 三子の事

常陸守の事 存之 源六

